

## 理科部会

高鷹美恵子

### 生徒の分かりやすさを検討していく

今年の理科部会は、コロナウイルスによる感染を防ぐために、4月から6月までは、部会を休みました。7月にZoomで話し合える部員と今後の活動について相談しました。その結果、次のような活動にしました。

- ・部会は、Zoomで行う
- ・参加しやすい時間19:30～21:30

・内容は、中学校新教科書の検討

9月から毎月第2木曜日の夜、部会を始めました。9月は生物分野、10月は地学分野1年「変動する大地」、11月は2年「気象分野」の検討をしました。

今後は、12月地学分野3年「天体」、1月からは、物理分野、化学分野の検討をする予定です。

生物分野、地学分野で何を大切に教えたいか、それが各教科書ではどのように扱われているかについて話し合ってきました。

した。話し合いの中で、各分野ごとの検討では、不十分なことが分かってきました。学習の基礎となる知識を学んでいるかどうか、その単元でつかませたい学習が理解できるかどうかに関わってくるということでした。

例えば、気象分野で基本的な概念の「圧力」については、物理分野では、来年から3年に移動します。そのため、圧力↓水圧↓気圧の順に教えたいのにそれができません。「気象」の学習の中で初めて「圧力」が説明されているのですが、正しい説明にはなっていません。

今後、話し合いをもとにして、応用的な知識が必要となる学習と基礎知識の学習を洗い出して、中学全体での学習の順序を考えて、提案していきたいと思っています。

現状、無理だとしてもそうすることで、「この学習の前に、このことを扱って

おくと、生徒の理解を助ける」などがわかってくると思うのです。

発行されている教科書の全部を見通して検討することは、学校現場にいるとなかなかできない事です。けれど、教科書によって、学習の順番も違いますし、科学的な現象についての説明も異なります。集団で検討することで、中学生にどのような学習をさせ、正しい知識を持たせることが出来るかを考える大事な時間になりました。

昨年の小学校の理科教科書についての検討でも同じことを感じましたが、中学の教科書ではさらに、自分自身の科学的な知識の不十分さも分かり、基礎的な自然科学の知識を学ぼうという行動につながりました。

今年も中学の新教科書検討は、都教組の協力も得て、公開が原則になっています。部員でなくとも、どなたでも参加できます。

参加希望の方は、連絡ください。Zoomでの参加方法についてご連絡します。たくさんの方の参加をお待ちしています。

(共同研究者)